

東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所
2021年度 パフォーマンス向上会議情報(2021年10月1日(金)分)

◆不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

2021年10月1日のパフォーマンス向上会議で審議された不適合は、下記のとおりです。

番号	不適合内容	グレード	発見日
1	【5. 6号機化学分析室の空調給気ダクトの保温材脱落について】 当直員が、5. 6号機化学分析室の空調給気ダクトの一部に保温材が脱落している箇所を確認。 5. 6号機化学分析室の空調運転は異常なし。 今後、当該箇所を修理予定。	GⅢ	9月27日
2	【6号機計装用空気系の除湿塔(B) 出口逆止弁の開固着について】 当直員が、6号機計装用空気系の除湿塔(B) 加熱再生工程において、除湿塔(B) 出口逆止弁が開いた状態で固着する不具合を確認。 当該逆止弁を打振し、弁の固着が改善、弁の機能および除湿塔(B)の運転に問題がないことを確認。 今後、再発防止のため当該逆止弁の点検手入れ予定。	GⅢ	9月27日
3	【5・6号機原子炉建屋使用済燃料プール内におけるビニール片の確認について】 9月27日パフォーマンス向上コーディネーター会議において、本案件に関するすべてのCR(不適合未済)をSR(不適合)にて対応と決定。 6号機発見日:8月24日 当社社員が、6号機使用済燃料プール内を調査確認中に燃料ラック上にビニール片を確認。 9月16日プール内に落下した燃料上にあったビニール片は回収済み。 使用できない燃料ラック内に落下しているものは、今後、プールラック内燃料を管理しているシステムで管理する。 5号機発見日:9月25日 当直員が、パトロール中に5号機使用済燃料プール内スキマサージタンク入口網に6号機で確認されたものと同様のビニール片を確認。 9月25日プール内に落下したビニール片を回収済み。 いずれも、震災前にプール周りの柵に異物混入防止のため取り付けたビニールの一部が劣化硬化し剥がれた物と推定。 9月29日プール周りの落下防止柵に付いているビニールを回収済み。 ビニール片による燃料や機器への影響はないことを確認。 今後、外した部分の養生予定。	GⅢ	9月27日
4	【1号機復水貯蔵タンク炉注水ポンプの炉心スプレイ系炉注水流量変動について】 当直員が、パラメータ監視中に、1号機復水貯蔵タンク炉注水ポンプの注水流量が、通常、炉心スプレイ系1. 5m ³ /h、給水系2. 0m ³ /hのところ、炉心スプレイ系注水流量が1. 5m ³ /hから2. 2m ³ /hに上昇していることをトレンドにて確認。 注水流量については、2. 2m ³ /hに上昇後徐々に低下してきたが、注水流量が1. 5m ³ /hにならないため手動にて1. 5m ³ /hに調整。 その後、9月30日から作業予定であった炉心スプレイ系配管清掃および流量調整弁点検のため、炉心スプレイ系注水流量を0. 0m ³ /h、給水系注水流量を3. 5m ³ /hとした。 関連パラメータについては異常なしを確認。 また、注水流量の上昇については、炉心の冷却に問題がないことを確認。 今後、当該流量計を点検、および、再発防止対策を検討予定。	GⅢ	9月29日
5	【95m風向・風速計のデータ欠測について】 協力企業作業員が、パトロールにて現場の記録紙を確認し、95m風向・風速計のデータが同じ値を示していることを確認、当社社員へ連絡。 その後、当社社員が9月29日発電所気象観測データのうち「95m風向・風速計」について、9月27日19時より同一の値が継続していることを新事務本館内の監視端末で確認。 データ異常を確認した後、監視端末で12時よりデータ伝送の遮断を実施。 現場にて「95m風向・風速計」は動作していること、伝送用の端末が動作不能となっていることを確認。 その後、端末の再起動を行い、データ伝送が再開されたことを確認。 データ伝送端末にシャットダウンのログが記録された後にデータ異常が発生していることから、何らかの原因で端末がシャットダウンし、自動再起動後に端末が動作不能となり、同じ信号が継続して送信されたものと推定。 気象指針(※)では「連続した30日間においては、この欠測率が30%以下」との要求があるが、今回の欠測期間は約2日であるため、要求を満足することを確認。 今後、継続監視しながら、端末の取替を検討。 ※気象指針:発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針	GⅢ	9月29日